

学校教育目標	【校訓】よく考え よく気づき やりぬく子供の育成 自他を尊重し、主体的に学び続ける児童の育成	経営理念	コミュニティスクールとして、学内外の教育資源を最大限に生かし、次代を担う人づくりを行うとともに、地域とともにある学校づくりを推進する。
--------	---	------	---

評価計画							自己評価				学校運営協議会による評価		改善方策	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							10月	1月						
確かな学力	2	主体的・対話的で深い学びの実現	1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実	○自律的に学ぶ子供が育つ理論や支援についての教職員の学び合いと実践 ○研究授業の実施（外部講師招聘）	・単元計画や授業づくりについての教師の肯定的評価 ・自律的な学びに関する児童アンケートの肯定的評価 80%以上	3以上 （4段階評価） 80%以上	教師の肯定的評価3.7 児童アンケート89%		123%	3	研究授業は3学級実施した。学習の見通しを持つ、学習方法等の選択、振り返りの充実など、自律的に学ぶ子供を育成するための研修を進め、担任教師が児童の実態に合わせた支援を工夫しているところがある。また、新たな取組に挑戦している教師もいる。取組半ばであるが児童の肯定的評価が高い。	A	・児童相互の学び合いを積極的に取り入れ、学びの深まり合いを支え合いながら定着させてください。 ・各級の学校の取組を見て、先生方が熱意をもって取り組んでいることを感じる。 ・学習方法の選択ができることで、子供の主体性が育まれ、意欲につながると思う。	引き続き、研究授業を通して自律的に学ぶ児童が育つ理論や支援について教職員の学び合いと実践を積み重ねていく。
			2 基礎学力の定着	○テスト結果の分析と指導 ○学習のつまずきに応じた学習支援の実施 ○ICTを効果的に活用した学習支援	・児童の学力定着状況：算数科単元テスト80点以上（低80%以上、高75%以上）	低80%以上 高75%以上	低78% 高86%		98%	3	観点別にみると、「知識・技能」は全学年目標値を到達しており「思考・判断・表現」に課題がみられる学年がある。授業の振り返りで学習定着状況を把握し、授業や家庭学習で多くの練習問題に取り組み、着実な定着を図る。またテスト直しの機会に、なぜ間違えたのかを確かめながら、個の理解を深めていく。	B	・児童相互の学び合いの中で思考が深まるという、児童文化の高まりを体感させてください。 ・先生方が児童の目線で見守っていて、児童との関係がとてもよいと感じる。 ・テスト直しの際、自分のつまずきを振り返らせ、個々の理解を深める取り組みがとてもよいと思う。	授業の振り返りで定着状況を把握し、授業や家庭学習で課題がみられる問題に取り組む定着を図る。また、テスト直しの機会に、個の理解を深めていくようにする。校内研修では教職員の実践交流により、よりよい指導方法や支援について共有し、実践につなげる。
			3 学びの土台となる学級づくり	○学級経営や児童理解に係る実践交流の定期的な実施	・児童の学級適応感の向上	学級適応感の向上	低83% 3年以上73%	—	3	研究授業を行う学級の観察をして、学級経営や児童理解に係る実践交流を行うことができた。学級参観week期間を設けたことにより、普段関わることの少ない学級に触れる貴重な機会になっている。今後も全教職員で全児童を見る意識の向上につなげ、児童にとっての居場所となる学級づくりを全学級で取り組んでいく。	B	・児童数が少ないので同じ比較はできないと思うが、前年より下がっているの、今後の取組をお願いしたい。 ・学級集団が集団として機能するための学び合いのルールが、集団の財産として児童に認識されているのか、指導者もお互いに学び合う必要がある。 ・授業参観をして、児童が授業に意欲的に参加していて、児童の理解度は高いと思う。学級が学びの場になっていると感じる。 ・お互いの学級の授業を見合う学級参観weekは、教職員のスキルアップにつながると思う。また、すべての児童の居場所づくりにもつながると思う。	引き続き、学級経営や児童理解に係る実践交流を行う。また、今後も学級参観week期間を設け、全教職員で全児童を見る意識の向上につなげ、児童にとっての居場所となる学級づくり、学校づくりに全学級で取り組んでいく。	
豊かな心の育成	1	自他を尊重し、児童の思いやりや協働意識を育成	4 自己肯定感の向上	○生活目標の肯定的評価を効果的に実施 ○児童による相互評価カード（年2回）の取組の充実 ○児童が主体的に活動する特別活動の充実	・「自分には良いところがある」と答える児童の割合85%以上	85%以上		82%	96%	2	「自分には良いところがある」と回答した児童82%で目標値85%に届かなかった。今後の行事や活動での教師による肯定的評価や児童による相互評価を充実させるようにしていく。	B	・子供たちが心を開ける地域での居場所づくりをすることが、子供たちの自己肯定感にもつながっていくのではないかと。 ・児童がお互いに支え合っているか、そして、児童相互の関わり合いを教師が意図的に指導できているかの確認が必要。 ・学校だけでなく、家庭や地域でもほめられることが増えれば自己肯定感の向上につながるのではないかと。 ・「相手を尊重すること」「思いやりをもつこと」などは、子供なりにしっかり考えて生活していると感じる。 ・児童が主体的に活動する場があり、自信となり自己肯定感が上がると思う。	学習発表会などの行事において、児童間でも肯定的評価ができるよう振り返りをする。また、生活目標でも感謝の気持ちを伝える活動を取り入れるなど、相手思いやり、尊重したりする活動を意識的に取り入れるとともに、できている児童を評価していく。
			5 共感的人間関係の育成	○縦割り班活動（掃除・遊び）の充実 ○相手意識をもって取り組む生徒指導重点目標「三津つ子スタンダード（挨拶・言葉遣い・掃除）」の定着	・「縦割り班で協力して活動している」と答える児童の割合90%以上	90%以上	94%	104%	3	「縦割り班で協力して活動している」と回答した児童94%で目標値を達成することができた。日々の縦割り班掃除を継続していることや、1年生お迎えの会、運動会での縦割り班対抗の競技などがこの評価に繋がったと考える。今後も縦割り班で楽しく協力している活動を継続していく。	A	・目標値を上げてでも達成できているのがよいと思う。 ・相手の内面まで思いを寄せた支え合いを継続させるための方策が大切だと思ふ。 ・掃除等を通じて、先輩との関わり方や後輩への思いやり等を学んでほしい。 ・縦割り班での活動が人との関わりや経験となり、思いやりをもつなどの成長につながると思う。	縦割り班掃除を継続し、それぞれが役割を果たしているように声掛けするとともに、教師による肯定的評価も行っていく。また、縦割り班で楽しく協力できる活動も計画する。	
たくましい心と体	3	気力・体力の向上	6 体を動かすことへの意欲の向上	○ロング昼休みの計画的な実施 ○縦割り班活動（遊び）の充実	・「運動が好き」と答える児童の割合90%以上	90%以上		84%	93%	2	「運動が好き」と回答した児童84%で90%に達成しなかった。全校遊びをする場を増やしたり、学級遊びを充実させたりすることで、運動の楽しさを感じる児童を増やしていく。また体育の授業で自己達成感を感じることができる内容を多く取り入れていく。	B	・目標を上げすぎたような気がする。 ・競争と協調のバランスを考え、運動を楽しむ環境づくりが大切である。 ・夏の暑さの中での運動が難しくなってきたので、これからの時期のスポーツ活動やマラソン大会などを活用するのがよいと思う。 ・運動をする子としない子の2極化していると思う。児童に運動の楽しさを教えてほしい。 ・全校遊びは、いろいろな工夫がされていて、自然に楽しく体を動かすことにつながっていると思ふ。	全校遊びをする場を増やしたり、学級遊びを充実させたりする。また、体育の授業で自己達成感を感じることができる内容を多く取り入れていく。これらのことを通じて、運動の楽しさを感じる児童を増やしていく。
			7 レジリエンスの向上	○体力カードを作成・活用し、適切な目標を設定させるなどの教師による足場がけの支援	・「目標達成に向けて、あきらめずに努力した」と答える児童の割合90%以上	90%以上	84%	93%	2	「目標達成に向けて、あきらめずに努力した」と回答した児童84%で90%に達成しなかった。体力カードを作成・活用し、目標をもたせて取り組むことはできた。発達段階に応じた目標の設定や教師の肯定的評価、児童同志の相互評価により、粘り強くあきらめない心を育てていく。	B	・児童をしっかりとほめてあげてほしい。 ・未知の領域への挑戦をどのように評価するか等が大切である。 ・目標値を達成できなかったということで、子供たちの努力不足に原因がある。短絡的な考えにならないように注意してほしい。 ・児童個々の能力に応じて目標を達成できたら、児童をほめてあげてほしい。 ・レジリエンスの向上には、他者との関わりの中で向上する部分もあるので、関わり方が大切だと思ふ。	引き続き、体力カードを活用し、目標をもたせて取り組ませしていく。教師の肯定的評価、児童同志の相互評価を大切にし、粘り強くあきらめない心を育てていく。	
信頼される学校	4	地域とともにある学校	8 コミュニティスクールと地域学校協働活動の推進	○学校運営協議会における協議の活性化による、地域学校協働活動の充実 ○生活科・総合的な学習における地域をフィールドとした探究的な学びの充実	・「地域が好き」「自分も地域の役に立ちたい」と答える児童の割合90%以上	90%以上		90%	100%	3	「地域が好き94%」「地域の役に立ちたい86%で、平均して90%であった。昨年度、学校運営協議会で行った。学校と地域が協働する活動を継続して探していく。また、「自分にできることは何か」という視点で、地域をフィールドとした探究的な学びに取り組むたい。	A	・地域と自分との関わりについて、発達段階に応じて児童が考えられる指導が必要である。 ・学校の外でも、児童は地域の人とも関わり合いをもつて生活していると思う。 ・地域というフィールドを知ること、今後も地域を大切に思う気持ちが育まれると思う。	総合的な学習や草取り朝会の後で、児童が地域の方々へのお礼を伝えるなど、自分たちの活動が地域の方々に支えられていることを、機会を捉えて今後も児童に意識させていく。
			9 働き方改革の推進	○見通しをもった業務遂行のための、取組計画の見える化 ○チームとして協働し、教職員が互いの力を発揮 ○ICT活用における業務改善	・「子供と向き合う時間（教材研究等の時間を含む）」が確保できている」と答える教職員の割合80%以上	80%以上	100%	125%	4	「子供と向き合う時間が確保できている」と感じる教職員は100%であった。見直しをもつための見える化として「教務だより」の先の予定を記載するなど工夫している。また、チャットを有効活用することで、会議の時間確保につながったことにより、教職員の時間確保につながっている。	B	・子供と向き合うことは、家庭や地域と向き合うことも含まれることを教職員が意識する必要がある。 ・先生方の自己評価が、高くなるような気がする。 ・先生方が子供の目線まで下りて、子供と向き合ってもらえたらと思う。 ・先生方が子供と向き合う時間が確保でき、児童との信頼関係ができれば、学習や生活が安心して取り組めると思う。	引き続きICTを有効に活用し、業務の効率化を図る。また、主任を中心としたチームで協働的に業務を推進し、教職員が子供と向き合う時間の確保に努める。	

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

達成値/目標値を百分率で表示する

■自己評価

4...目標を上回って達成

2...目標をやや下回って達成

3...目標どおりに達成

1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価（学校運営協議会による評価）

A...とても適切である

C...あまり適切でない

(N...判定できない)

B...概ね適切である

D...全く適切でない